

# Face to Face

TICO は徳島発！保健医療・農村開発などの分野で、アフリカ・アジアで支援活動を行っている国際協力 NPO 法人です。

地球規模の問題に苦しむ人たちの自立支援を共同作業により実施し、そこで学んだ経験と知識を地域の人々とわかち合い、私たち自身のライフスタイルを振り返るとともに、地域の精神文化の昂揚に寄与することを目的としています。

TICO 季刊ニュースレター No.50 2018 年 4 月号

平成 29 年度「第 44 回大山健康財団賞」受賞のお知らせ	☞ p.1
第 3 回心臓血管外科トレーニングの報告／心房中隔欠損症手術に看護師参加	☞ p.2
ザンビア心房中隔欠損症作戦／ベテラン臨床工学技師の奮闘記	☞ p.3
理事のつぶやき	☞ p.4



## 平成 29 年度「第 44 回大山健康財団賞」受賞のお知らせ！

TICO の代表理事 吉田修の業績が評価され、公益財団法人大山健康財団の平成 29 年度「第 44 回大山健康財団賞」を受賞いたしました。

評価を受けた業績内容は下記のとおりです。以下、大山健康財団ホームページ(<http://ohfin.com/>)より

### 【業績内容】

吉田修氏は、宮崎大学医学部を卒業後、病院勤務の傍ら 1989 年から青年海外協力隊に参加され、アフリカの小国マラウイで入院患者 900 人に対し医師 5 人という劣悪な状況の中で 2 年間外科医として勤務され、帰国後、2 年ほど病院勤務するも途上国支援をしたいという思いが拭えず、アジア医師連絡協議会（現在は AMDA）のスタッフとして日本での臨床の傍ら様々な途上国支援、自然災害や紛争地への緊急支援（イラン震災やレバノン空爆、パプアニューギニア津波、ルワンダ内戦、モザンビーク帰還難民支援）に携わられた。1993 年に「徳島で国際協力を考える会」（後に TICO に改称）を設立され、1995 年よりザンビアの地域保健医療活動に関わり、1997 年より TICO として本格的にザンビアでの活動を開始された。1999 年には医療法人さくら診療所を開設され、国内での臨床の傍ら「国際協力を続けたい」という医療関係者の育成にも尽力されている。この間、ザンビア首都での救急隊設立や、農村部のプライマリーヘルスケアプロジェクトを 10 年以上支援され、カンボジア首都での救急隊設立や地方都市での公立病院の救急医療



☆特定非営利活動法人 TICO 代表理事  
☆医療法人 さくら診療所 理事長 ◇医師（満 59 歳）

技術支援に 10 年以上携わられている。現在は、医師、臨床工学士から構成されるチームで、ザンビア医師による心臓外科手術実施の実現に向けた技術指導を行っており、ザンビア保健省、ザンビア大学医学部付属教育病院からも大きな期待がかけられている。こうした現地活動にかかる費用は、徳島での診療活動や農業活動と、TICO を始め吉田氏の活動に賛同する方々からの寄付収入やボランティア活動で賄われている。

## ザンビア心臓血管外科技術移転事業『現在までの活動とこれから』その2

ザンビア大学教育病院 University Teaching Hospital  
第3回心臓血管外科トレーニングの報告さくら診療所  
心臓血管外科医 松村武史

2018年1月31日から2月16日までザンビア University Teaching Hospitalにて、第3回心臓血管外科トレーニングを行いました。参加者は、私のほか、江川善康医師、関谷理臨床工学技士、山崎恵子看護師がボランティアとして参加されました。とくに江川先生は小児用の人工心肺回路を寄付してくださいました。対象はザンビア人外科医4名、体外循環士1名、看護師2名であり、第1回トレーニングから同じ人員となっています。

今回のトレーニングでは心房中隔欠損という、心臓の左右の心房を隔てる壁に生まれつき穴があいている患者さんの手術を行いました。この手術は心臓の中を縫う手術であり、開心術と呼ばれ、心臓を止めて行いますが、その間に人工心肺(体外循環)というシステムが必要不可欠です。今後ザンビア人だけで開心術ができるように、人工心肺や手術室をセットアップし、2月6日、7日、9日とザンビア人医師執刀によるはじめての開心術を行いました。ザンビア人には経験がないことでしたが、指導的助手として手術にはいられた江川先生のリードで手術は順調に進み、人工心肺は関谷さんが安定して維持し、周囲では山崎さんが外回りとして手術を支えました。手術後もICU管理は山崎さんとザンビア人麻酔科医や看護師がうまく連携し、患者さんたちはトラブルなく経過し退院にいたりしました。

今回手術を行ったことで、ザンビア人心臓血管外科チームやUTHスタッフは多くのことを経験しました。また人工心肺や手術室のモニタリングなど今後私たちが活動をしていくための基礎



はできたと思います。

しかし、医師たちの実力不足、滅菌の問題、物品の問題、日本とのスピードの違いなど、さまざまな問題点が見つかりました。これらを克服して活動が前に進むようがんばっていきたいと思います。今後は、3月に医師たちの日本での4週間の研修、8月に第4回トレーニングを予定しています。

また、今回の活動中など皆様から応援メッセージや寄付をいただくことが何度もあり、とても励みになりました。ありがとうございました。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

## 心房中隔欠損症手術に看護師参加

さくら診療所  
看護師 山崎恵子

「ザンビアの心臓外科医師と一緒に手術をするから、日本からも患者さんの術前、術後管理をする医療者が必要。」この松村先生の誘いを受け、術前、術中、術後管理をザンビアの医師、看護師、麻酔科と共にするために渡航しました。

TICOの活動では、2015年に母子保健プロジェクトでインターンとして参加した事があり、2回目のザンビア行きになります。前回の活動では、雨が降ると川の水が増水し学校や医療機関に行けない、インフラが不安定な村の状況を目の当たりにしました。今回は日本から医療器材や消耗品を持参したものの、高度医療を提供する事が出来ました。村と市内で受けられる医療の違いを感じる渡航となりました。

さて、手術日までは一瞬で過ぎ去ったように思います。医師や看護師と共に患者さんの診察やCTなどの術前検査に同行し手術適応か最終判断したり、日本から届いた器材や消耗品を使用出来るよう準備したり、手術室の準備、ICUのベッド周囲の準備、術中や術後の患者さんの状態を安定するように管理したりと、患者さんが安全に手術を受けられるように、また手術が滞りなく出来るよ



うするべき事は次から次へと出てきました。ただ、一緒に活動した現地の看護師、医師、麻酔科のスタッフは非常に協力的で、今回の手術はチーム皆で成功させたものだと思います。高度医療を安全に受けられる環境や機材の設置など、まだまだ解決しなくてはならない事はあります。しかし、国が違えど、患者さんが「少しでも元気になって生活を送ってほしい」という気持ちで医療に携わっているこのチームメンバーで、ケアが出来た事は、『必ず次に繋げたい』そう思える経験になりました。

## ザンビア心房中隔欠損症作戦

昨年11月のPDA(動脈管開存症)手術の次のステップとして、ASD(心房中隔欠損症)の手術をUTH(the University Teaching Hospital)でザンビア人Dr.が行う計画をTICOの松村Dr.が中心になり計画した。私には、やや無謀な計画ではないかと思われたが、前回の流れで参加することとなった。

ASDの手術には人工心肺装置が必要だが、(これはイタリアのチームが時々訪れて、手術をして帰っている。)埃を被った器械が手術室にあった。一番問題となるのは、回路・人工心肺などの消耗品のコストである。日本で開心術を行うと、消耗品だけで数十万円の費用が掛かる。因みにザンビアの一人当たり国民総所得は年間15万円ぐらいである(2015世界銀行)。しかし、首都ルサカ中心部には日本車が溢れており、ガソリンは日本並みに高い。富裕層は、外国(南アやヨーロッパ)で手術を受けている様である。

計画では小児2例・成人2例のASD4症例を予定した。準備に当たっては、多くの消耗品などを日本より持って行く計画を立てた。成人用の人工心肺回路は5セットをヨーロッパのテルモ支店より購入する段取りであった。小児は患者さんが決まらず、勤務先の病院仕様の小児用のM回路を2セット持って行くこととした。これらを1月30日に先発隊が持って行く予定であった。カニューレ類はあまり嵩張らないので、患者さんが決定したら体重などを連絡してもらい、私が持参することとした。

2月2日(金)の深夜、私の出発前夜であるが、電話で起こされた。いろいろな器機を持参する予定であった山本さん(TICOのコーディネーター)が急遽ザンビアに渡航できなくなった。そこで、翌日出発前に関空で落ち合って、必要な荷物を受取り私が持参す

## 四国子どもとおとなの医療センター 小児心臓外科医 江川善康



る、ということになった。3日は予定より早めに関空へ行き、待合室で荷物を拵げた。結局、30kgぎりぎりまで荷物を持って行くようになった(鞆は2つになった)。

2月4日(日)にルサカに到着し、5日はUTHで患者さんを診察した。テルモ社の回路はルサカには届いていたが、まだUTHには届いていなかった。最初の2小児例の人工心肺回路は日本より持参した回路を使用することとした。

2月6日(火)、10歳、女児のASDパッチ閉鎖術を行った。Dr. Ziwa 執刀で、第1助手には私が入った。第2助手にはDr. Felix M. が就いた。器械出し看護師にはMs. Rebecca, 人工心肺は関谷さんとMr. Felix K. が担当した。継ぎ接ぎだらけの人工心肺回路のセッティングが出来てから手術開始となった。指導しながらの手術となったので時間は2倍以上掛かった。術後、手術場で麻酔を覚まして、ICUに入室した。山崎看護師は術前・術後管理に辣腕をふるった。

## ベテラン臨床工学技士の奮闘記

ザンビア UTH(ザンビア大学付属教育病院)での心臓外科チーム一員(心臓手術時の人工心肺装置担当)として参加してまいりました。参加にあたり、初めての事ばかりでした。

**参加のキッカケ:** 海外でのボランティアに興味があったところに、昨年12月下旬、TICOから臨床工学技士会の国際交流のメーリングリストにボランティアの急募があり、応募し面接をしました。

**渡航(1月下旬)まで:** 職場の許可、厚生労働省に証明書依頼、予防接種(狂犬病3回接種等)、コレラや暴動の発生で行けるかどうか不安でした。

**準備と実際:** 何を持って行けば良いのか、何を準備すれば良いのか非常に迷いました。物品が用意出来ていなく、手術は中止?! の場面がいくつかあり、綱渡りの状態で臨みました。一番困った絶体絶命の時に、現地の外国人スタッフの協力で手術が進行できて、非常に感謝しています。今から思えば、準備には限界と想像を超えていることがあり、無い物は現地にあるもので工夫して行く創造力が身に付きました。一番は、現地にあるものの中で、自分が一番欲しいものを提供してもらえるようなコミュニケーションが一番だと身に染みて実感しました。翌日に、同じものが即座に出て来て感動しました。しかも毎日使う物は、用意されていた時は、非常に嬉しかったです。

**手術後:** 危機的な状況(停電、機械故障、突発的事故等)の場合、日本ではそれらの対策は訓練済みの事が多いですが、現地では、最低限の対策しか出来ていない状態でした。幸いにも安全に無事に終了する事が出来ました。

## 聖マリアンナ医科大学病院 臨床工学技士 関谷理



**帰国して:** 準備の時から、非常に刺激的な毎日を過ごさせていただきました。同じ状況が次回起きたら、今回のように最後まで遂行できる自信があるとは言えません。日本からのスタッフ、ザンビア人の心臓外科医、看護師、体外循環技師、看護助手、現地の外国人スタッフ等に助けられ、大変感謝しています。そして、滞在中に体調を崩さず過ごせたのは、毎日食事を作ってくれて送り迎えをしてくれた、モーリン氏とカピラ婦人に大変感謝します。ありがとうございました。次回、チャンスがあれば安全性を高めて、是非参加したいと思っています。よろしくお祈りします。

## 理事のつぶやき

カンボジアで医療支援に関わりはじめた15年前、政府の担当者が貧困者たちの居住地で医療を無償で受けられる仕組みについて説明し、医療施設を利用するよう説得して歩いていた。所得が低い場合には無償で受診できるサービスが導入されたものの、「実はお金を要求されるのでは」という懸念もあり、病気になると魔除けの人形を飾ったり、お払いをしたり、自分で安い薬を買って対処していた。なかなか快復せず、悪化してようやく病院を利用するものだから救える確立はかなり低くなる。なので「病院に行くと死ぬ」というイメージが定着し、西洋医学を嫌がるという悪循環があった。今ではかなり変化し、高所得者や外国人を対象とした高度医療の病院も展開している。技術や設備も整

## カンボジア担当 新田

ってきつつあるが、日本と比較すると40年は遅れているとも言われている。

この先、カンボジアは、そして日本はどうなっていくのだろうか。



## ご支援ありがとうございました

TICOの国際協力活動は、皆様からの寄付金や会費によって支えられています。  
温かいご支援をお待ちしております。

### 寄付をいただいた方(書き損じハガキ等を含む)

佐藤佳孝、武田富子、増富 光、高松聖ヤコブ教会婦人会、橋本伸子、青井洋明、西さわ子、原田恵子、佐藤周子、松村武史、原井和子、井内恵子、小倉由起子、住友克義、澤田節子、江川善康、吉田修、西愛正、深田君代、秋月益子、唐住州子、TICO ユース、渡忍、吉岡陽子、庄野、吉田喜輔、東條雅紀・恭子、森一水、仲本桂子、佐藤貴美子、高杉晋輔、笹福山秀生、増田裕、小林一之、近藤良樹、棚橋節子、田久保曜子、井上洋行

### 会費を更新された方

曾我部仁史、白石吉彦、饗場和彦・新田恭子、寺口カミコ、秋月益子、中村晃一、森本佳奈、松村武史、福山秀生、山崎恵子、宮城恒雄

- 2017年11月1日～2018年2月28日分
- 順不同、敬称略

## \*TICOの会員になってください！

会員となって資金面からもTICOの活動をサポートして下さる方を募集しています。会員の方には、TICO ニュースレター“Face to Face”を毎月お送りいたします。

### 年会費

賛助会員	個人	¥12,000
	学生	¥6,000
	団体	¥15,000
正会員		¥12,000

※通常は賛助会員でのご入会をお願いしています。総会での議決権を持つ正会員を希望される方は事前にご連絡下さい。

入会ご希望の方は、年会費を郵便振替にてお支払い下さい。郵便局備え付けの振替用紙で、次の口座へお願いいたします。

口座番号 01640-6-37649

加入者名 TICO

ご住所・ご氏名(フリガナ)・お電話番号の他に、Eメールアドレスもお持ちでしたら通信欄にお書き添下さい。

なお、ゆうちょ銀行自動引き落とし、クレジットカード払いも可能です。詳しくはホームページをご覧ください。下記までお問い合わせ下さい。

## \*ご寄付をお待ちしております！

団体の運営、活動を支える、皆様からの大切なご寄付。団体に対する寄付につきましても、引き続きご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 - 01640-6-37649(加入者名)TICO

銀行振込 - 四国銀行 山川支店(店番号 344)

普通 0199692

特定非営利活動法人 TICO 代表理事 吉田修

※カナ入力の場合は、トクヒ)テイコ

クレジットカード - ホームページをご覧ください。

募金箱 - さくら診療所(徳島県吉野川市)に常設しています。

インターネット - TICO ウェブサイトのバナー広告をクリックして、そこからお買い物していただくと、代金の一部が寄付されます。詳しくはホームページをご覧ください

書き損じハガキ - ご自宅に年賀状の書き損じ、余り等はありませんか。ございましたら、是非事務局までお送りくださいませ。



TICO ニュースレター Face to Face 第50号  
2018年3月発行 発行人:吉田 修

### 特定非営利活動法人 TICO 事務局

〒779-3403 徳島県吉野川市山川町前川 120-4

電話:0883-42-2271(平日 9:30~18:30)

メール:info@tico.or.jp / ホームページ:www.tico.or.jp

フェイスブック:www.facebook.com/ticohq

ブログ:blog.goo.ne.jp/tico\_blog